



大阪北ブロック 三島支部  
並川洋子税理士事務所 鹽井 雅也

阪急高槻市駅から南に5分ほど歩くとカトリック高槻教会があります。ここに1573年21歳で高槻城主となった高山右近の像があります。

12歳の時に父の影響で洗礼を受けた右近は、21歳で高槻城主となり、五畿内で最大の収容力を持つ教会を建てるなど盛況を呈し、1577年には高槻の領民25,000人うち18,000人（72%）の信者がいたと言われていました。



しかし、1587年秀吉が突如バテレン追放令を出し、右近にも棄教を迫りますが、右近はそれに応じなかったため、城から追放され流浪の身となります。1612年徳川幕府はキリシタン禁教令を発布、右近に国外追放令が出されます。

右近一家は2月雪の中を京都に向かい、坂本から船で長崎へ向き、長崎から小さな船でマニラに向かいます。マニラに到着し現地ルソン総督らに大歓迎されるも、慣れない南国の風土に体を病み、到着後40日1615年2月63歳の生涯を異国で終えました。

右近がこの高槻の地でこれほどまでに盛況を呈したのは、彼が非常に活発で知性に優れていただけでなく、今でいう「福祉国家」をこの地で形成し、戦いで傷ついた民たちを自ら休むことなく献身的に世話するほか、このような貧しい者たちの世話をする役職を毎年任命して仕事に当たらせていたことにあります。

右近は、郷土の誇りとして、市民の心を癒し、希望をもって立ち上がる象徴として、今も高槻市民に語り継がれています。

---

日本におけるキリスト教迫害の歴史はその後残虐に続き、多くの悲話各地に残ります。明治維新、鎖国が解かれてキリスト教も1873年ようやく解禁となります。西洋の文化の移入や教育と福祉事業に力を注がれました。2つの大戦を経て、今では思想、宗教、言論の自由を勝ち取った世の中となり、誰しも生きられる権利を持ったことを大事にしたいです（編集 西岡）